

## 第6回 医療・健康分科会 議事要旨

1. 日時 平成26年9月19日(金) 10:00-12:00

2. 場所 中央合同庁舎第4号館 12階 全省庁共用1214特別会議室

### 3. 議題

- (1) 開会
- (2) 工程表該当予算施策(平成27年度)に関する意見交換
- (3) プレゼンテーション
- (4) 閉会

### 4. 議事概要

#### (1) 開会

○事務局より開会宣言

#### (2) 工程表該当予算施策(平成27年度)に関する意見交換

※非公開

#### (3) プレゼンテーション

○坂野参考人(スキルアップジャパン株式会社代表取締役社長)よりプレゼンテーション

#### <意見交換>

○松本座長

東京慈恵会医科大学附属病院では、どのように現在のサービスに至ったのか。

○坂野参考人

もともと東京慈恵会医科大学附属病院が脳卒中対策ネットワークソリューションとして開発していたものを基に、NTTドコモとスキルアップジャパンが設計の刷新から行って展開したサービスとなる。

○松本座長

動画がリアルタイムで共有できるという点において、医療の現場では高い評価を受けていると認識している。

介護現場で使う場合、予定表をすぐ見られるとあるが、日々巡回計画の変更が発生する場合はどのように対処するのか。例えば、サービス提供される側、する側のニーズで変わるのか。

○坂野参考人

随時、現場判断の反映はできるように設計している。日々介護の巡回をされる中で間接業務を減らしていくソリューションである。日報などのアナログ記録を電子化することで、医療現場や他の介護者も含めて地域全体の情報連携ができるようになる。既に介護事業者等には業務システムが導入されているので、そこで従業員のシフトコントロールとか、基本的な患者の情報のやりとり等ができる仕組みとなっている。そこは、このソリューションでは一切関与せず、そのソリューションと連携して、訪問記録等を他の関係者と繋ぐといったことが役割となる。

○松本座長

ソリューションにおける通信利用において、光回線ではなくADSL回線での環境でも、通信は担保されているのか。というのも、西伊豆地域の介護や訪問診療に取り組んでいるが、この地域には光回線が通っていない。

○坂野参考人

不可能ではないが、光回線である方が望ましい。ご存知のとおり、PACSサーバの画像は非常に大きなデータ量がある。サーバに必要な情報を残して、スマートフォンで見やすいようにしている。

○構成員

現場の方のタブレットの利用状況はどうか。

○坂野参考人

社会福祉法人こうほうえんでの利用事例では、72才の職員の方が利用している実績がある。

○構成員

企業がこのようなソリューションをかなり大胆なプライシングで始めたということは、大変すごいなと感じるとともに、広がることを願う。分科会としても、お手伝いできることがあれば、素晴らしいと思う。

○構成員

日本のICT技術を世界に広めていくという点で、医療情報の標準化の国際会議ISO/TC215で、韓国がモバイルヘルスに関して熱心に取り組んでおり、そろそろISO標準規格となるものが出てきそうである。したがって、ISO規格に決まってしまうと入札制限等にも関係してくるため、その活動の動向を確認しておくのと、できれば参加して日本の言うべきところを言っておいた方が良いのではないかな。

○坂野参考人

ぜひ、ご指導いただきたい。韓国企業とは、一緒に事業を進めるということはあるが、国の動きは把握していないので、確認していきたい。

○松本座長

標準規格ということで、この点について総務省での認識はどうか。

○総務省

ITUの方でもモバイルヘルスに関する標準化の検討を進めており、フォローはしている。

○坂野参考人

ブラジル及びチリという親日国にサービス展開しており、韓国企業とも競合はあるが、我々を選んで頂いている。また、ガイドライン作成も一緒に取組んでいこうとアプローチ頂いている。

(4) 閉会

○松本座長

工程表該当予算施策（平成27年度）に関する追加のコメントは、9月25日（木）までに、事務局へご連絡いただきたい。

○遠藤政府CIO

IT総合戦略室において、各府省庁の概算要求について確認をはじめるところだが、ここでの皆さんの意見を活かしながら進めたい。

該当施策の内、多くの施策は継続であり、各施策について、総論から各論になってきている。平成27年度までの間の取組でこれまでどういう成果を上げたか、しっかりみていかないといけない。

なかには、取り組んでみて初めて課題が判明したのではなく、事前にしっかり評価しておけば対策できたのではないかと思える施策もあった。その意味で、構成員の先生方の意見が大変支援になるのではないかと考えている。

マイナンバーの利用を広めよう、パーソナルデータの保護、医療費削減まったなし、等に絡んだ様々な議論は、より具体化・白熱してきているので、取組みのエネルギーとして、上手に導けば、良い方向へ結集していくのではないかと考える。

大きな変曲点にきていると思う。百家争鳴で、議論ばかりしているのではなく、この分科会を中心に、ある方向へしっかりと方向付けしてエネルギーが結集するという形にもっていけるようにしていきたい。

○事務局より

次回12月頃の開催を予定。

以上